

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人 関記念 柘の木会		
事業所名	認知症老人グループホームうらら		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812-1		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和2年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は静かで緑豊かな環境にあり、建物は柘木の蔵の街をイメージして建てられました。「住み慣れた地域と家庭的な雰囲気の中で個々の尊厳、人格を尊重し、その人らしい生き方を支援して行きます」という基本理念を掲げ、介護の基本は接遇ということを念頭に置き、職員全員がトータルな接遇を身につけております。穏やかで安心した生活が送れる様に傾聴と寄り添いの気持ち「今」を大切に、自立性を促しながら、本人の意向に沿った余暇活動、及び外出や生活支援、四季折々の行事を通してご利用者の笑顔を引き出せる企画作り、又ご家族参加の行事もあり楽しみを共有し、地元の方々とはお祭りに参加し交流を深めております。健康管理に留意しご家族や個々の主治医とも相談を密に行い、信頼関係を構築できる様努めています。様々な想定避難訓練を実施、地元消防団との連携を図りながら、防災に対する強い意識を持ち取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町北部の県道宇都宮柘木線から少し入った閑静な場所にあり、大学病院に隣接するとともに東武駅や商業施設にも近く利便性にも優れている。隣接地には同法人の運営する特別養護老人ホームや老人保健施設などがあり、行事や緊急時には協力し合うなど連携が図られている。家庭的な雰囲気を大切にした環境づくりとともに、介護の基本は接遇であることを日頃から意識して一人ひとりの思いに寄り添った支援に努めている。法定の通報・避難訓練のほか、地域の消防団の協力を得て独自の避難訓練を実施するなど災害対策の強化に努めている。毎年利用者アンケートを取ったり、家族懇談会を設けるなどして、家族等の意見を運営に反映させるよう努めている。毎月の職員会議に合わせて内部研修を実施するなど職員の資質向上にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を各棟のホール、介護員室に掲示し、毎月の接遇目標や介護マニュアルを毎朝の朝礼時に唱和し、職員全体で共有し実践につなげている。	理念とともに接遇改善委員会で定めた毎月の目標を事務室等に掲示している。また、介護の基本は接遇であることを日頃から意識づけ、心得や禁句が記載された介護接遇マニュアルを毎朝の引継ぎ時に唱和するなどして共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社や寺のお祭りへの参加が恒例になり、席の準備や、住民の方々の手作り料理を振舞って頂き、交流を深めている。中学生の訪問では、折り紙、ゲーム、トランプ等で交流を図り、楽しみを共有した。各種ボランティアの受け入れも継続している。	地域の神社やお寺のお祭りには、毎年参加し交流を深めている。民生委員から紹介された多くのボランティアや中学生の訪問があり、利用者の楽しみともなっている。	付近の住宅が離れており、普段のつきあいが難しい環境であるが、自治会や地域の行事に参加するなどして、より地域との交流が深まるような工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や中学生福祉体験、運営推進会議を通して、認知症の症状や接し方、日頃行っているケアについて話をさせて頂いている。又、地域行事の際に理解や支援方法など話す機会を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催でご利用者状況、各種行事、研修、防災、家族懇談会、ご利用者アンケートの結果報告とその後の取り組みを伝え、運営に関する事等を報告し、意見や助言をもらい、サービスの向上につなげている。	運営推進会議は町職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者の参加のもとに2か月ごとに開催している。年1回はボランティアや消防団の参加もある。運営状況を報告するとともに、そこで出された意見等を運営に反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で現在の状況や、活動報告、ケアサービスの取り組みを伝えている他、随時電話等で相談や助言を頂く等、連携を図っている。町の福祉祭りには法人として協力し、関係を築いている。	運営推進会議で日頃の運営状況を伝えるとともに、介護保険制度についてわからないことがあれば電話で助言を得るなど協力関係を築くよう努めている。町の福祉祭りにはスタッフとして参加協力もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の習慣、気持ちを理解し、好ましい言葉遣いを心掛け、言葉による拘束を含め身体拘束を行わないケアを実践している。内部研修により正しく理解し、さりげない声掛けや見守りにより、玄関の施錠はしていない。	身体拘束をしないケアについては内部研修により全職員がよく理解している。特に声掛けや職員の言動は日頃から確認しあい、利用者にとって精神的な抑圧にならないよう努めている。日中は玄関も施錠せず、見守りにより対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や接遇改善委員会を中心に、言動に気をつけ、敬う気持ちを大切にする事を学び、言葉遣いが適切か、注意し合える職場環境、明るいホーム作りを目指している。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて知識習得に努めている。身内関係が希薄なご利用者には安心して生活が送れる様、関係者との連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書で納得のいくまでゆっくりと確認しながら説明している。不安や疑問点についても、説明、相談、話し合いを行っている。退居については理由を明確にし、理解を図り、不安の無い様説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者集会、アンケートにより意見の把握に努めて普段の会話の中で気軽に意見や要望が表せる様コミュニケーションを大切にしている。又、ご家族懇談会や面会時には、積極的に話し掛け意見、要望を伺える機会を設け、話しやすい環境作りをしている。	利用者の意見や要望は日頃の支援の中で丁寧にくみ取るとともに、毎年利用者アンケートを取り集会で話し合っている。家族の面会時や毎年実施している家族懇談会では意見等が出やすいような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見等は運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、各棟のカンファレンス、朝礼時、リーダー会議、又、随時意見を聞く機会を設け、話しやすい環境作りに努めている。提案により勤務体制の変更、業務を改善する等、職員の気付きや、意見は検討し反映させている。	管理者は日頃から職員との意思疎通を図り、話しやすい雰囲気づくりに努めている。勤務時間の変更や個別の支援方法など可能な限り職員意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状態、努力、実績等を把握し、給与・賞与に反映している。各委員会活動、行事企画運営、居室の担当を持ちやりがいが持てる様、環境を整えている。成果を認める声掛けを忘れず、コミュニケーションを図る努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には新人用マニュアルに沿って力量を把握しながら勤めている。外部研修は段階に応じて受講出来る様配慮している。又、各自資格取得の講習、研修も同様である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の総会や研修会の参加、同業者の研修受け入れの中で交流し、活動内容や取り組み等を参考にしてサービスの向上に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅で生活していて、困ってる事、今の生活で何をして過ごしていたか等を伺って、入居後も自宅と同じ様な生活が出来る事。少しでも不安を取り除く事が出来る様に話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのお話を伺い、困っている事、不安に思っている事は何かを話し合いながら見出し、どの様な支援が必要かを考え、話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって今必要な支援は何か、本人、家族にとってどんな支援をするのが望ましいかを話し合っていく中で見つけ出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に寄り添い、行動を共にする事で共感したり、時には近くで見守りながら、各々の時間も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がどのような生活をしているか毎月うらら便りにて、本人のご様子を報告している。ご家族面会時には最近の様子や要望等もお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、兄弟、親戚と大切に過ごしてきた関係が途切れる事のないよう、面会に来棟して下さった時には、居室でゆっくり過ごして頂く様にしている。又、馴染みの美容室や理髪店を利用している方もいる。	家族や友人、近所の方、中には教会の方の面会もある。面会時には職員がお茶を出すなどして居室でゆっくりできるよう配慮している。家族の協力のもとに理・美容室や墓参りなどへの外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりに目配り、気配りを行い孤立しないように、職員もご利用者の中に入って、ご利用者同士の関係を支えていく。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、相談支援を行っている。法人内の事業所とも連携を図り、ご家族からの相談なども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりどんな暮らしがしたいか、施設内で可能な事は、本人の意向を伺い実施している。職員間で情報共有を行い、一人ひとりの思いに寄り添った支援を心掛けている。	日頃の会話の中で思いや意向を丁寧にくみ取るよう心掛けている。特に入浴時などの1対1の支援時における何気ない言葉を大切に共有するよう努めている。意思疎通の困難な場合には家族からの情報を参考にして職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前に、どんな生活を送ってきたか、ご本人の馴染みの場所などはあるかを伺い、少しでも近い生活が出来る様にしている。入居前に使っていたサービスについても把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースで一日を過ごして頂ける支援をしている。体調に合わせて体操をしたり、個別で生活リハビリをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、モニタリングを実施している。その他、状況が変化した時など、話し合いを行い、その人にとって何が必要かなど意見を出し合い、職員間で情報共有をしている。	介護計画は、利用者及び家族から要望などを聞き取り、必要に応じて主治医に問い合わせをし、それらを踏まえ毎月のカンファレンスで意見を出し合い、作成している。状態が変わればその都度見直しをするなど現状に即した計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりが行う日課などについて、記録に記入している。気付いた事や改善が必要な事がある時は、連絡ノートを活用し職員間で申し送りしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにこだわらずに、本人・ご家族の希望に合わせたサービスも利用している。誕生日には本人の希望があれば、外食支援を行っている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、ハーモニカクラブ、民話の会等、地域交流のボランティアの方が来棟し、ご利用者との交流を深めている。近くの中学校も福祉体験等で来棟し交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかっている病院に受診している。状態変化時は、随時主治医への報告書を作成し、連携を図り情報交換をしている。状態次第で、往診して下さる場合もある。	これまでのかかりつけ医を主治医としている。受診は基本的には家族対応としており、受診時には本人の状態を記した報告書を家族に渡し医療機関、家族と情報を共有している。緊急時には隣接する特別養護老人ホームの協力が得られる体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には、同法人施設の看護師に相談を行っている。薬は調剤薬局に相談し、指示を頂いている。他職種連携が取れるように、日頃から同法人内にて連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後状態をご家族へ伺ったり、直接病院へ行き今後の治療の方針、今のご利用者の状態お確認を行っている。退院時には退院時カンファレンスに参加するなど、病院、ご家族と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、ターミナルケアになった場合の対応について、ご家族と話をしている。そのような状態になってきた場合、主治医やご家族へ報告相談をし、今後の方針を検討していく。特養への住み替えも視野に入れ、ご家族へ説明している。	利用開始時に重度化や終末期になった場合に、できることできないことなどについて家族に説明している。現在は特別養護老人ホームへの入所や病院への入院がスムーズに移行できるよう支援している。急な容態の変化により家族の了解のもと、主治医に相談し看取りを行った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。急変時の対応など研修を行い、全職員がいざという時に対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルは所定の場所に掲示している。内部研修として災害研修も実施している。うらら独自の想定避難訓練を実施。地域の消防団・消防署の協力を得ている。年間計画に基づく隣施設との合同避難訓練、召集訓練を実施しカンファレンスを行い、改善、修正を行っている。	法令で定められた通報・避難訓練は隣接する特別養護老人ホームと合同で実施している。事業所独自の訓練も地域の消防団の協力のもとに毎年実施し、機器の使い方を習うとともに反省を踏まえ改善を図りながら対応力の強化に努めている。緊急時に備え職員間の「LINE」も設定した。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を設置しており、職員一人ひとり意識している。内部研修の題材にしたり、接遇マニュアル唱和をし意識向上に努めている。	利用者には人生の先輩として敬い笑顔で接するよう心掛けている。部屋への入室時は不在であっても必ずノックをして声をかけて入室している。トイレの誘導時もトイレという言葉を使わず羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの得意不得意、好み等把握した上で本人の意向、希望が聞き出せるよう言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向を尊重し、その日を過ごしている。交流支援、庭内散策等。棟の中だけでなく行き来出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出前に化粧や好みの洋服に着替えたり、入浴後の衣類もご利用者と一緒に好みの物を選んだり、好きな髪形に整えられる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供形態もお楽しみメニューや、外出支援等でご利用者の好きなものを伺い、食事が楽しみなものとなるように提供し支援している。ゆっくり味わって頂けるように職員も同じテーブルにて食事を摂っている。又、食後も食器の片付けや食器拭き等も行っている。	食材は宅配業者から仕入れ、毎食職員が調理している。個々人に合わせ量を変えたり、きざみ食にしたり工夫している。お楽しみメニューを取り入れたり、誕生日には外食に行くこともある。利用者も後片付けをしたり食器拭きをしたりと残存機能に応じて手伝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、職員全員が把握をし食事形態の変更、嗜好品を提供し少しでも多く摂取して頂ける様に支援している。カロリーの不足、栄養の偏り、水分不足にならない様に声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要なご利用者には職員がガーグルベース等を使用しうがい、ブラッシングのお手伝いをして口腔ケアをしている。又、就寝時には義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方は自分のペースで行い、その他の方は時間や行動を見ながら声掛け案内をしている。日中はトイレでの排泄、個々に合わせた排泄方法、プライバシーに配慮し対応にあたっている。	自立している利用者には見守り、そうでない利用者には排泄パターンを把握して早めの誘導を行うなどトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトと牛乳を摂取し、主治医との連携を取り、便秘薬を内服している方もいる。散策や体操を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の身体機能、希望に合わせてゆっくりと入浴出来る様に配慮している。拒否のある方には時間や言葉掛けをし無理強いはせず工夫している。	週3回利用者の状況に合わせてゆっくりと入浴できるよう支援している。1時間以上入浴を楽しむ利用者もいる。拒否者には声掛けを工夫したり、時間をずらしたりしている。季節のゆず湯やバラ湯などの支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活ペースは崩さない様にTVやラジオを聴いたり、就寝前は特にリラックス出来る様に好きな事をし安眠に繋がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書をファイルしいつでも確認、把握出来る様にしている。又、症状の変化があった時は、主治医に指示を仰ぎ、迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく行える家事手伝いをして頂き、役割を持ち、張り合いのある生活を送って頂いている。庭内散策や農園での野菜作りなど季節を感じられる様に工夫して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとの行事や誕生日支援の希望を取り、要望に沿った支援を実施している。近所のお花見や銀杏並木の見物は毎年楽しみにされている。各棟ごとにご利用者の希望を伺い、外出支援を行っている。	暖かい日には、広い事業所の敷地内を散歩し、観音様にお参りしたりしている。年間行事を立て、お花見や食事、ミニドライブ、大学病院のイチョウ並木などに出かけている。家族の協力のもとに受診に合わせた外食などの外出支援もしている。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしており、行事や外出の際に使用したり、必要なもの(欲しい物)がある時に使っている。預けてあるお金があることに安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望がある時、ご家族と電話でお話できるよう支援している。また、携帯電話を持っている方は自由に連絡を取り合っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下にはレクの時間に作成した季節の作品を飾っている。室温や温度調節を行い常に気持ち良く過ごして頂ける様にしている。	リビングは柔らかい光が入り、温湿度も適度に調節されている。壁には季節が感じられるような貼り絵や塗り絵などの作品が飾られている。毎日テーブルや手すり、ドア、玄関などをアルコール消毒するとともに臭いにも気を使い衛生管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係を配慮して、テーブルの席を配置している。ご利用者によっては場所を移動して1人で落ち着いて過ごすことが出来る様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真などを飾ったりしている。安全に過ごせるよう、家具の配置を考えたりしている。	ベッド、洗面台、エアコン、タンス、クローゼットが備え付けられている。利用者は好みに合わせテレビ、仏壇、椅子、冷蔵庫などを持ち込んだり写真や作品を飾るなどしており、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、たたみや、食事前の準備等、出来る方には積極的に行える様に声掛けしている。バリアフリーとして車椅子や自走の妨げにならない様に安全に過ごせる環境づくりをしている。		